

「北方領土」について

札幌市立平岡中央中学校 一年 河江 実莉

小学三年の時、私は初めて納沙布岬から、北方領土を見ました。それは、貝殻島という岩の様に小さな島でした。

「自分の立っている所は日本だが、たった3.7キロメートル先にあるあの島は、もうロシアの地なのだ。」と思うと、深い感銘を受けました。

納沙布岬までの道路の、あちこちに、「北方領土を日本に返還してほしい。」といった主旨の看板が立ててあり、私は不思議に思った。

「どうしてこんなに看板があるのか。北方領土に対して、何故こんなに熱い思いを、抱くのだろう。きっと理由があるはずだ。」

頭の中に渦巻いた疑問を解く為、私は早速図書館に通い、北方領土に関する本を読み漁りました。

そして、北方領土に元々住んでいたのは、アイヌと呼ばれる人達だったという事を知り、ずっと日本人が住んでいたと思っていた私は、少し驚きました。

北方領土は、アイヌが住み着いていただけに、自然豊かで、ほぼ自給自足出来る、素晴らしい島々です。

総面積は四島合わせて、5,003平方キロメートルもあり、千葉県や愛知県と、ほぼ同じ面積に相当します。

夏は涼しく、冬はそれ程寒くもなく、積雪も平均1メートルと少なく、住み良い気候。

美しい色合いの鳥エトピリカや、海の動物、陸の動物達にとっても楽園だった四島から強制的に、追い出された人々の気持ちは、推して量る事が出来ます。

目を閉じると脳裏に、1万7千人あまりの島民達の悲しみ、怒りの気持ちが浮かんで消えていくようです。

そして私が北方領土の本を色々と読み、一番、印象深かった話は、昭和21年、色丹島の村役場勤務だった島民の体験談です。

その島民は、ソ連（ロシア）の軍人達が、あっという間に島を占領する中、ある軍曹に忠告されたそうです。

「近いうちにソ連軍の憲兵隊がやってくる。そうなれば身動きも出来なくなる。今のうちに北海道に逃げなさい。」と。

私は、この軍曹の行動は、危険と隣り合わせの、勇気ある行為だと思いました。何故ならこの事が上層部に漏洩したら、苦しい立場になってしまうからです。私利私欲を超越した軍曹の行いに、私は心を打たれました。

シンプシカフ（アイヌ語で、根雪の前に降る大地を凍らす雨）が降る晩秋に私は、つくづくと思います。北方領土が日本に返還され、皆が幸せになれる日が、いつか来る事を。